



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	Characteristics of antigravity spontaneous movements in preterm infants up to 3 months of corrected age (修正1-3ヶ月の極低出生体重児の自発運動における抗重力運動の特徴)
Author(s) 著 者	宮城島, 沙織
Degree number 学位記番号	甲第 2870 号
Degree name 学位の種別	博士 (医学)
Issue Date 学位取得年月日	2016-03-31
Original Article 原著論文	
Doc URL	
DOI	
Resource Version	

学位論文の内容の要旨

報 告 番 号	甲第 2870 号	氏 名	宮城島 沙織
<p>論文題名</p> <p>修正 1・3 ヶ月の極低出生体重児の自発運動における抗重力運動の特徴について</p> <p>研究目的</p> <p>生後 3 ヶ月までの乳児では自発運動が見られる。乳児はこの自発運動をとおして、粗大運動を学習するとされている。早産児はこの自発運動における抗重力運動が弱く、粗大運動発達に影響を与える可能性がある。本研究では、自発運動における抗重力運動の特徴を正期産児と比較することで明らかにすることとした。</p> <p>研究方法</p> <p>抗重力運動の指標を左右の手足の接近距離、手足の挙上の高さとし、3 次元動作解析システムを用いて測定した。早産児は極低出生体重児を対象とし、修正 1、2、3 ヶ月時、正期産児は生後 1、2、3 ヶ月時に測定した。各指標における各月齢の差および 1・3 ヶ月間の変化を 2 群間で比較した。</p> <p>研究成績及び考察</p> <p>早産児 13 名と正期産児 15 名が 3 回の測定を完遂した。早産児は手足の接近距離の平均値が正期産児より大きく、手足の挙上(高さ)の平均値は小さかった。これは早産児の抗重力運動が正期産児より平均的に少ないことを示す。また、手足の挙上(高さ)において、正期産児は 3 ヶ月間で変化した、早産児では変化を認めなかった。</p> <p>結論</p> <p>早産児の抗重力運動は正期産児より平均的に少ないことがわかった。また発達的变化を認めないことが明らかになった。</p>			

論文審査の要旨及び担当者

(平成 28 年 3 月 31 日授与)

報告番号	甲第 2870 号	氏 名	宮城島 沙織
論文審査 担 当 者	主査 教授 堤 裕幸	副査 教授 石合 純夫	
	委員 教授 齋藤 豪	委員 教授 長峯 隆	

論文題名	Characteristics of antigravity spontaneous movements in preterm infants up to 3 months of corrected age. (修正 1-3 ヶ月の極低出生体重児の自発運動における抗重力運動の特徴)
結果の要旨 <p>今回の「修正 1-3 ヶ月の極低出生体重児の自発運動における抗重力運動の特徴」という研究は、乳児期に見られる自発運動を抗重力運動の視点から客観的手法で評価し、正常産児と比較した初めての報告である。早産児では修正 1-3 ヶ月において抗重力運動の量が低下していること、更に経時的変化を認めないことを明らかにしている。</p> <p>早産児の生存率は増加傾向である一方、その後遺障害が問題となっており、それらに対する治療や対策が急務である。今回の研究は早産児の粗大運動発達予後を改善するための介入において重要な基礎的情報を提供していることから、博士（医学）学位授与に値すると評価できる。</p>	